科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	総合:就労体験(選択)	単位数 6 単位	履修年次 2 年次
目標	(1)体験を通して明確な進路意識や望ましい職業観、勤労観を身に付ける。 (2)主体的な職業選択能力や適応力を身に付け、将来の進路について真剣に考える。 (3)異世代との交流によりコミュニケーションの大切さを知る。		
使用教材	実習日誌、校内指導冊子、プリント教材等		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	体験、研修、事前・事後学習等を通して、職場で実際に用いられている専門的な知識や技術・技能、社会人としてのマナー等を理解して行動している。また、実習内容を適切に記録することができている。	体験、研修、事前・事後学習等において、状況に応じて自らが取べき行動を考え、適切に判断し、実行することができている。また、体験を振り返り、他者に自らの学びをわかりやすく伝えることができている。	自分の進路や体験先での仕事に関心を持ち、体験、研修、事前・事後学習等に意欲的に取り組むとともに、職場で関わる人々とのコミュニケーションを積極的に行おうとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準をふまえ、体験先の所見、体験内容、発表およびレポートの内容、日誌の提出状況等を総合的に判断する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	【前期 事前指導】 ・就労体験を受講するにあたっての講話、体験を行うにあたっての留意事項、抱負作文、グループ面接学習等 【前期 就労体験】(4月～9月) ・事業所における体験 ・前期は8回程度、いずれも金曜日 【前期 中間指導】 ・前期末発表に向けた事前準備等	事前指導では、就労体験の目的を確認するとともに、体験するにあたっての心構えやマナー等を身に付ける。また、体験を通じて、望ましい職業観や勤労観、異世代と積極的にコミュニケーションを取る態度等を養う。	
2	【前期 就労体験】(継続) 【前期 事後指導】 ・前期就労体験のまとめ、振り返り活動 ・実習発表の準備等 ・文化祭発表(壁新聞の展示) 【後期 事前指導】 ・後期体験を行うにあたっての留意事項、抱負作文等 【後期 就労体験】(10月～2月) ・事業所における体験 ・後期は9回程度、いずれも金曜日	事後指導では、前期就労体験の振り返りを行い、改善点等を確認して、後期の体験でより良い行動ができるよう意識を高める。また、後期は前期よりも高い目標、意識を持って体験に取り組もうとする態度を育成する。	
3	【後期 就労体験】(継続) 【後期 事後指導】 ・後期就労体験のまとめ、振り返り活動 ・実習発表の準備等 ・体験発表会	事後指導において、後期就労体験ならびに1年間の振り返りをとおして、生徒が自分の職業観や勤労観を明確に持ち、将来の進路について真剣に考える態度を養う。また、体験発表会を行うことで表現能力を養うとともに、他の職業についても理解を深め、視野を広げる。	
学習上の留意点	体験先へは自宅から直接出向き、終了後はそのまま帰宅する。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	総合:基礎振り返り(選択)	単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	「読み」「書き」「計算」「初歩的な英語」等、社会に出るために欠くことのできない学習内容について、スモールステップ形式によってつまづきの原因を把握しながら義務教育段階の学力の定着を図り、社会で必要となる基礎的な学力を育成する。		
使用教材	マナトレ基礎編英語、数学、国語(10級～7級)プリント		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	国語・数学・英語における基本的な概念や用語、記号等を身に付け、また背景にある文化なども理解している。様々な問題に積極的に関心を持ち、的確に理解し表現している。	文章読解や数学的な活動を通して物事を幅広く考え、論理的・客観的に判断し、思考の過程を考えている。	積極的に言語活動を行い、感想や意見を表現したり、コミュニケーションを図ろうとするとともに、数学的なものの考え方を認識し活用しようとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準をふまえ、提出物、授業態度、授業に必要な準備物がそろっているかといった内容で総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	【日本語における言語文化】 ひらがな表記、カタカナ表記、漢字の成り立ち、主語と述語の把握、敬語、語い、同音異義語、接続語、呼応、漢字 【実生活における数的処理】 加法、減法、乗法、除法、四則混合計算 【日本語以外の言語文化】 アルファベット、身の回りの単語(名詞、動詞、形容詞、副詞)、一般動詞現在形、英単語	年間を通して、義務教育段階で学んだ国語・数学・英語の内容を復習し、基礎段階のつまづきをなくし、基本的な学習内容の定着を図る。	
2	【日本語における言語文化】 敬語、語い、同音異義語、接続語、呼応、漢字 【実生活における数的処理】 加法、減法、乗法、除法、四則混合計算 【日本語以外の言語文化】 一般動詞過去形(規則動詞、不規則動詞)、英単語	年間を通して、義務教育段階で学んだ国語・数学・英語の内容を復習し、基礎段階のつまづきをなくし、基本的な学習内容の定着を図る。	
3	【日本語における言語文化】 敬語、語い、同音異義語、接続語、呼応、漢字 【実生活における数的処理】 加法、減法、乗法、除法、四則混合計算 【日本語以外の言語文化】 一般動詞過去形(規則動詞、不規則動詞)、英単語	年間を通して、義務教育段階で学んだ国語・数学・英語の内容を復習し、基礎段階のつまづきをなくし、基本的な学習内容の定着を図る。	
学習上の留意点	演習中心の授業で、演習プリントに書き込みながら課題に取り組む。基礎的な学習内容の定着に向けて、日々の繰り返しや反復練習に重点を置く。必要に応じ、一般教養の問題演習を行ったり基本的なソーシャルスキルの技術向上に取り組んだりする。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	総合:手話コミュニケーション(選択)	単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	聴覚障がいに関する知識や手話の基礎的・基本的な技術を身に付ける。また、手話を用いて積極的にコミュニケーションをとろうとする実践的な態度を身に付ける。		
使用教材	テキスト(学校で用意したもの)		
評価の観点・評価基準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	聴覚障がいに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、手話の役割、コミュニケーションの重要性を理解している。また、手話によるコミュニケーションをとることができる技術を身に付けている。	コミュニケーションに関して自ら思考を深め、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付け、表現している。	手話に関心をもち、手話の習得に意欲的に取り組むとともに、手話を用いて積極的にコミュニケーションをとろうとする実践的な態度を身に付けようとしている。
評価方法	評価の観点・評価基準をふまえ、ペーパーテスト、提出物、授業・実習態度、授業に必要なものの準備物がそろっているかといった内容で総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・手話のはじまり ・聴覚障がいについて ・手話の実習(指文字・物の形・動きの特徴の表現・自己紹介・家族・名前・趣味・誕生日・仕事等の表し方) 	<ul style="list-style-type: none"> ・手話がどのように形作られ、発達してきたか等の手話の概要について理解する。 ・体験談を聞いたり、ビデオを見たりすることによって、聴覚障がい者の生活について理解する。 ・実習を通して、指文字や身近な物、気持ち、数字等の単語を手話で表現する能力や、様々な人と積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を身に付ける。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県名の表し方 ・手話の実習(今日はどんな一日だったか、一週間で何をしたか、年間行事・買い物等に関する日常的な会話) 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な出来事等の簡単な日常会話について、自分が伝えたいことを相手に手話で表現する能力や、手話を読み取って積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を身に付ける。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・手話の実習(病院へ行ったとき、現在・過去・未来について等の日常会話) ・1年間の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を行う上で必要な単語を手話で表現したり、これまで学習した手話を用いて積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を身に付ける。 	
学習上の留意点	毎時間、学んだ手話を選択生の前で発表したり、授業中に筆記試験を実施したりするため、できる限り授業を欠席しないように注意する。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	総合:地域産業とみかん(選択)	単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	紀南地域の特産品である柑橘類の栽培から流通までの過程やその関連産業等、この地域の「みかん産業」の現状と課題について学び、地域産業の担い手として活躍するための知識や態度を身に付ける。		
使用教材	学習プリント等		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	「みかん産業」の現状や課題について、多様な方法で情報を集めて理解し、自分の考えを相手にわかりやすく伝えることができている。	「みかん産業」の現状を理解する中で、課題となることを明らかにし、その背景とともに整理して考えることができている。	「みかん産業」の現状や課題を、その背景とともに理解しようとするとともに、それを表現しようとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、授業で作成するレポートの内容、および授業を受ける態度等で総合評価を行う。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	紀南地域で栽培されている柑橘類の特徴を理解するとともに、柑橘類の年間をとおした時期ごとの栽培管理の概要等を学習する。また、実習をとおして育苗に必要な作業を体験する。さらに、「みかん産業」の歴史や魅力等についても触れる。 「みかん産業」の現状を学び、生徒が興味を持つ課題を設定する。	「みかん産業」の基本的知識を理解するとともに、授業や実習等で得た情報をまとめ整理できる。 探究心を持って学習に取り組む態度を身に付ける。	
2	自ら設定した課題の解決に向けて、思考ツールを活用しながら情報の整理や分析を行う。必要に応じて、みかんの摘果作業や果実袋掛け作業、収穫作業、選果場見学等の現地調査と、農家や講師へのインタビューを行う。 設定した課題について中間報告を行う。	柑橘類の栽培の流れ等を理解するとともに、授業や実習等をとおして得た情報をまとめ整理できる。 探究心を持って学習に取り組む態度を身に付ける。	
3	これまでの調査・研究について成果発表を行う。成果発表では、生徒による相互評価を行う。必要に応じて専門家や地域の方々から講評をもらう。 成果発表を行うにあたり、事前・事後の学習および振り返りを行う。	地域社会の課題の中から適切な材料を選び、課題の解決に向けて構想したり、考察・構想したことを、根拠となる情報を基に効果的に説明したり議論したりする力を身に付ける。 より地域社会の実現を目指して、地域社会の課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、探究する経験を自信や自己有用感につなげ、社会参画しようとする態度を身に付ける。	
学習上の留意点	学校を代表してフィールドワーク等の校外活動を行うことを自覚する。時間を遵守することや制服・作業服の着こなし、挨拶や言葉使い等において相手に対する丁寧なコミュニケーションを心がける。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	総合:地域創造学(選択)	単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	東紀州地域の過疎化や少子高齢化対策、防災・減災などの地域課題について探究活動を行う。地域課題を解決したり、地域資源を活かしたりして行う地域の未来づくりをテーマにした探究活動をとおして、未来の社会的変化に対応できる人材の育成を図る。		
使用教材	プリント教材等		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	地域社会の特色や課題などを理解するとともに、調査や諸資料から課題解決に向けての様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地域社会の課題の中から適切な材料を選び、課題の解決に向けて構想したり、考察・構想したことを、根拠となる情報を基に効果的に説明したり議論したりする力を身に付けている。	よりより地域社会の実現を目指して、地域社会の課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、探究する経験を自信や自己有用感につなげ、社会参画しようとする態度を身に付けようとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、ペーパーテストやプレゼンテーションスキル、レポートの内容の他、課題の提出状況や日々の授業態度などを含めて総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	<ul style="list-style-type: none"> 東紀州地域における、人口減少や過疎化といった現状と課題およびその対策、また未来社会の地球規模の課題や科学技術の発展などの新しい時代の変化についても学習する。 必要に応じて、地域の方を講師として招聘して講演を行うこととおして、専門的な見地から学習を行う。 	地域社会の特色や課題などを理解するとともに、調査や諸資料から課題解決に向けての様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	
2	<ul style="list-style-type: none"> 東紀州地域における現状と課題を踏まえ、防災・観光・教育・医療・農業・経済・文化といった分野から、自分で探究するテーマを決めて、調査・研究(実習、見学を含む)を行う。 3学期の成果発表に向けての中間報告を行う。中間報告を行うにあたり、事前・事後の学習やふり返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会の課題の中から適切な材料を選び、課題の解決に向けて構想したり、考察・構想したことを、根拠となる情報を基に効果的に説明したり議論したりする力を身に付ける。 よりより地域社会の実現を目指して、地域社会の課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、探究する経験を自信や自己有用感につなげ、社会参画しようとする態度を身に付ける。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> これまでの調査・研究について成果発表を行う。成果発表では、生徒による相互評価を行う。必要に応じて専門家や地域の方々から講評をもらう。 成果発表を行うにあたり、事前・事後の学習およびふり返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会の課題の中から適切な材料を選び、課題の解決に向けて構想したり、考察・構想したことを、根拠となる情報を基に効果的に説明したり議論したりする力を身に付ける。 よりより地域社会の実現を目指して、地域社会の課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、探究する経験を自信や自己有用感につなげ、社会参画しようとする態度を身に付ける。 	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 他者を尊重し、各自の個性を認め合いながら、相互に学び合うという姿勢を持つ。 調査のためのフィールドワークやインタビューを行う機会があるため、本校生徒として適切な服装や言動に心掛ける。 自分の思考や行動を客観的に把握・認識するために、ポートフォリオを活用する。 		